

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>1 子ども達の未来に光を当てる取組について (30分)</p> <p>去る1月29日に市議会の視察研修で、千葉県松戸市の子ども部の視察をしてまいりました。松戸市は、日本経済新聞と日経デュアルによる全国の162自治体を対象にした「自治体の子育て支援制度に関する調査」の「共働き子育てしやすい街」ランキング全国編で1位に輝いており、「子どもに対する予算は、未来への投資である」との市長の強い考えのもと、子ども部を中心に、教育委員会等他部局とも連携して、全庁的に子ども政策に取り組んでおりました。</p> <p>松戸市と隣接する流山市でも、独自の政策により、共働き子育て世代を狙い撃ちした政策を積極的に展開しております。</p> <p>自治体では初となる「マーケティング課」の設置、「シティセールス室」の設置により、シティセールスプランを策定し、自治体間競争を勝ち抜くために、「共働き子育て世代」をターゲットにしたマーケティング戦略を展開しております。</p> <p>「学ぶ子にこたえる、流山市。」や「母になるなら、流山市。」「父になるなら、流山市。」などの市のイメージ広告が首都圏主要駅に掲出され、都心への通勤者、それぞれの駅に在住する人へのPRが話題を呼びました。</p> <p>個々の子どもに対する施策も充実しており、こうした取組の結果として、2005年からの8年間で、人口の10%にあたる16,000人が増加、その中でも10代未満の子どもと30～40代の子育て世代が大幅に増加し、団塊の世代を上回り、子育て世代が最大のボリュームゾーンになる人口構成になっております。</p> <p>本市における子ども政策も、鶴ヶ島版ネウボラなど、個々の施策としては、先進性のある、市民目線に立った取組がなされておりますが、昨年4月の児童虐待による傷害事件や平成26年に発生した西中学校のいじめ問題など、対外的にマイナスのイメージの方が目立っているような気がいたします。</p> <p>今後、急速に少子高齢化が進んでいく中で、人口減少対策として最も重要となってくるのが、これからの鶴ヶ島市を担う子ども、そして子育て世代に対する政策であります。そうした子どもの未来に光を当てる取組をいかに進めていくのか。「子育てするなら、鶴ヶ島。」という言葉が本市のイメージとして定着するような取組をいかにしていくのか。こうした観点から、以下質問いたします。</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
(1) 子育て環境及び支援の現状と今後について (2) 幼児保育の現状と今後について (3) 青少年健全育成の現状と今後について (4) 学校における教育環境の現状と今後について (5) 地域における子育て環境の現状と今後について (6) 子育て世代を呼び込んでいくための政策について (7) 行政のマーケティング戦略の必要性について (8) 総合的な子ども政策の考え方について	
<p>2 鶴ヶ島市の都市政策について (30分)</p> <p>先日、市の立地適正化計画についての勉強会に参加させていただき、東洋大学理工学部建築学科の野澤千絵先生による「本格的な人口減少社会に向けた都市政策のあり方～立地適正化計画の現状と課題～」の講義を聞く事が出来ました。</p> <p>低密に拡大したまちの非効率な都市計画の影響、都市計画としてコンパクトシティ化を進めていく上での課題、現在進められている立地適正化計画の実例など、これまでの右肩上がりの時代から、今後の人口減少社会に移り変わる社会情勢の変化を踏まえた都市政策の方向性について、わかりやすく説明をしていただきました。</p> <p>本市では、現在、農業大学校跡地に県施行の「(仮) 圏央鶴ヶ島インターチェンジ東側地区土地地区画整理事業」への取組が進められております。</p> <p>そうした中、埼玉県議会において、県議会自民党県議団により「県西部地域未来産業集積推進懇話会」が設立され、県議会9月定例会で、農業大学校跡地活用とともに、坂戸市、東松山市、日高市など、鶴ヶ島ジャンクションを中心とした半径 10km のエリアを未来産業拠点に位置づけ、県内初の国家戦略特区を目指した未来産業型企業の集積により経済成長につなげる計画案が、上田知事に提案されました。</p> <p>また、12月22日には、いわゆる地域未来投資促進法に基づく県と鶴ヶ島ジャンクション周辺の13市町の共同で策定された「埼玉県基本計画」、「埼玉県鶴ヶ島ジャンクション周辺地域基本計画」の2計画(関越自動車道と圏央道の結節点である鶴ヶ島ジャンクションを中心とする交通網の強みを生かし、先端産業の集積を目指すもの)が国の同意を得ました。</p> <p>以前にも、県による圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺の川越市、鶴ヶ島市、日高市にまたがる地域への研究、産業機能の集積を目的にした構想として「むさしの研究の郷構想」がありましたが、今回新たに、鶴ヶ島ジャンクションを中心とした半径 10km のエリアの13市町による、大規模な構想や計画が出てきております。</p> <p>現在、土地地区画整理事業の認可に向けて、環境影響評価や都市</p>	市 長

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>計画変更の諸手続きなどが進められている農業大学校跡地やその周辺整備に、こうした新たな構想や計画がどのように影響してくるのか。また、これから策定していく立地適正化計画への影響、さらには本市の都市計画への影響など、これからの都市政策がどのような方向に向かっていくのか。これらのことを踏まえて、以下質問いたします。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 鶴ヶ島市の立地適正化計画について(2) 農業大学校跡地活用及び周辺整備の現状と今後について(3) 県内初の国家戦略特区の計画案について(4) 地域未来投資促進法に基づく2つの計画について(5) これからの都市政策の方向性について	